

# 委託事業実施内容報告書

## 平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語指導者養成】

受託団体名 特定非営利活動法人 沖縄国際人材支援センター

#### 1. 事業の趣旨・目的

日本語指導者を養成して、沖縄在住の外国人向けの日本語講座を増やし、多文化共生社会を実現する。

#### 2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成23年 7月29日	NPO法人 沖縄国際人 材支援セン ター	戸袋勝行 元山由美子 与那覇麻孔 大城順政 瀬底あけみ	スケジュール最終確 認と募集状況	5月に戸袋、元山、大城、 瀬底で集まったときに決 めた日程、授業内容を基 にその後各講師と個別に 調整して作ったスケジュ ールの最終確認をおこな う。
平23年9 月27日	NPO法人 沖縄国際人 材支援セン ター	戸袋勝行 元山由美子 与那覇麻孔 大城順政 瀬底あけみ	8月講座の総括と10 月講座募集状況	12回の講座を振り返り、 授業計画を練り直す。 また講師のスケジュール に合わせて、日程も入れ 替える。
平24年2 月17日	NPO法人 沖縄国際人 材支援セン ター	元山由美子 与那覇麻孔 大城順政 瀬底あけみ	10月講座の総括と 8・10月講座全体の 反省と今後の方向性	日程を振り返り、感想と 反省点を述べ合う。次年 度を含めた今後の方向性 について話し合う。

【写真】ある日の会議風景



### 3. 養成講座の内容について

- (1) 講座名： ボランティア日本語指導者養成講座
- (2) 開催場所： 日本文化経済学院
- (3) 学習目標： 日本語指導者を養成して、沖縄在住の外国人向けの日本語講座を増やし、多文化共生社会を実現する。
- (4) 使用した教材・リソース： 「日本語バイリンガルへのパスポート」他各講師作成資料
- (5) 受講者の募集方法  
募集のチラシを作成し、沖縄の地元大手新聞である沖縄タイムスの無料掲示板「ホームプラザ・いんぷおプラザ」や琉球新報の「レキオ」で掲載してもらったり、那覇市役所や那覇市NPO活動支援センター、及び那覇市内の数カ所の公民館にチラシを置いてもらった。
- (6) 受講者の総数 47人  
(出身・国籍別内訳 受講生全員が日本人)
- (7) 開催時間数(回数) 72時間 (全 24回)
- (8) 参加対象者の要件  
応募においては、当講座の『学習目標』を理解し賛同してくれる方で、『年齢・学歴・国籍・性別は問わず、ただし日常的に日本語で生活をしている方』を要件と定めた。
- (9) 講座内容

回	開催日時	時間数	人数	講座名／学習内容	講師・補助者
①	8月18日 14:00-17:00	3時間	20人	開講式、ボランティアの心得・意義・課題・喜び	NPO法人地域創造ネットワークジャパン理事 戸袋勝行 NPO法人 沖縄国際人材支援センター 経理係 補助者 仲田佳世
②	8月23日 14:00-17:00	3時間	18人	自分の日本語を振り返る、日本語教育とは、沖縄の日本語を考える	沖縄大学日本語教師 養成講座講師 元山由美子、仲田佳世
③	8月25日 14:00-17:00	3時間	20人	生活者に日本語を教えるということ、異文化理解・多文化社会とは	立教大学教授田中望、西東京市多文化共生センター山辺真理子、琉球大学留学センター講師与那覇麻孔 仲田佳世

④	8月30日 14:00-17:00	3時間	18人	沖縄の日本語教育の現状、 沖縄在住の外国人の推移と 日本語ボランティア教室の 現状	与那覇麻孔 仲田佳世
⑤	9月1日 14:00-17:00	3時間	19人	動詞の活用、動詞のグルー プ分け	元山由美子 仲田佳世
⑥	9月6日 14:00-17:00	3時間	19人	動詞のグループ分け復習	元山由美子 仲田佳世
⑦	9月8日 14:00-17:00	3時間	19人	直接法体験、日本語の動 詞・形容詞・助詞	元山由美子 仲田佳世
⑧	9月13日 14:00-17:00	3時間	18人	授受表現・待遇表現、教案 の書き方	元山由美子 仲田佳世
⑨	9月15日 14:00-17:00	3時間	19人	日本語学校 アメラジアン スクール、浦添市、沖縄市 の日本語サークル見学	瀬底あけみ 仲田佳世
⑩	9月20日 14:00-17:00	3時間	17人	日本語ボランティアサーク ル模擬体験	与那覇麻孔 仲田佳世
⑪	9月22日 14:00-17:00	3時間	16人	模擬授業、日本語教師に必 要なこと	元山由美子 仲田佳世
⑫	9月27日 14:00-17:00	3時間	16人	修了式&懇親会	戸袋勝行、元山由美 子、与那覇麻孔 仲田佳世
⑬	10月22日 10:00-13:00	3時間	24人	開講式、自己紹介、ボラン ティアの心得・意義・課題・ 喜び	戸袋勝行 仲田佳世
⑭	10月29日 10:00-13:00	3時間	25人	異文化理解・多文化社会と は、多文化共生社会へ向け た取り組みと日本語教育の 必要性	田中望、与那覇麻孔、 仲田佳世
⑮	11月5日 10:00-13:00	3時間	24人	日本語教師になるには、沖 縄の日本語を考える	元山由美子 仲田佳世
⑯	11月12日 10:00-13:00	3時間	25人	沖縄における日本語ボラン ティア教室、沖縄に住む外 国人の推移	与那覇麻孔 仲田佳世
⑰	11月19日 10:00-13:00	3時間	23人	動詞の活用、動詞のグルー プ分け	元山由美子 仲田佳世
⑱	11月26日 10:00-13:00	3時間	24人	動詞の種類、日本語の動詞、 形容詞の種類と活用	元山由美子 仲田佳世
	11月28日~ 12月2日		26人	日本語学校 アメラジアン スクール、浦添市、沖縄市 の日本語サークル見学	瀬底あけみ
⑲	12月3日 10:00-13:00	3時間	19人	見学の感想、直接法体験	瀬底あけみ 仲田佳世
⑳	12月10日 10:00-13:00	3時間	23人	授受・待遇表現を教える時 や、発音・アクセント・表 記を教える上での注意	元山由美子 仲田佳世

⑳	12月17日 10:00-13:00	3時間	21人	模擬授業1(ボランティア 教室で教える)	瀬底あけみ 仲田佳世
㉑	1月14日 10:00-13:00	3時間	16人	教材研究、教案の書き方、 教科書の紹介と授業の実際	元山由美子 仲田佳世
㉒	1月21日 10:00-13:00	3時間	17人	模擬授業2(クラスで直接 法を使って教える)、日本語 教育とは日本語教師に必要なこと	元山由美子 仲田佳世
㉓	1月28日 10:00-13:00	3時間	15人	修了式／懇親会	元山由美子 仲田佳世

### (10) 講座の評価

#### ① 受講生に対するアンケート（アンケートのコピーを資料として添付）

アンケートの結果から、受講生全員が何らかの貴重な経験や発見があったと確信している。その中で特に目立ったコメントを下記に列挙してみた。

- 日本語の難しさ、日本語の再発見
- 日本語を学ぶということはどういうことかを考えさせられた
- “ウチナーヤマトグチ”の面白さと多さ
- 普段では行くことのないアメリカン・スクールや外国人が勉強している日本語教室などを訪問できたことや、外国人と直接話げできたことの楽しさ
- 学校で学んだ国語文法との違い、文法の難しさ
- 日本語を見直す良い機会を得、新しい仲間ができた
- グループ分けによるディスカッションの楽しさ

#### ② 実施主体からの研修内容結果評価

地域で日本語学習を必要とする人たちに関わりたいと思っている人たちを掘り起こしたことだけでも、本講座の開講の意義は大きい。日常使っている日本語を、外国人の目から見直し、分析することで、改めて言葉に対する意識も高まり、日本語を媒介として在住外国人と共同作業をしていく基礎部分を作れた。また共通語と沖縄独特の日本語の運用の仕方の違いは、教科書で教える時や他府県から来た人たちに教える時に生かされる。教授法については、多人数への一斉授業とボランティア教室での教え方の違いなど、もう少し時間数をとって取り組む必要を感じる。

#### ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今後の計画としては、初級・中級レベル以上を対象とした日本語教室を実施するのと並行して、日本語指導者養成講座とボランティアを対象とした実践的研修も開講していきたい。特に、今回実施した指導者養成講座ではあまりカバーできなかった地域の外国人のための教室活動の実践的な研修の場を提供していきたい。

## (11) 事業の成果

### ① 他事業との連携

この1年、日本語教室や日本語指導者養成講座を提供してきたが、今後は「ボランティアを対象とした実践的研修」も含めた総合的な日本語教育を実施し、三つの業務が補完し合う形で講座を進めたいと考えている。

### ② 研修後の人材活用

日本語指導者養成講座を修了した受講生の多くがボランティアとして沖縄県内に在住する外国人が日本語を勉強する際のお手伝いをしたいと申し出、現在5名が活動中である。しかし現在県内のボランティア講座はほとんどが6時以降の開催のため、平日の午後の開催だった8月講座の受講生は意欲があってもなかなか参加に結びついていないのが現状だ。今後は、このようなボランティアの方々が実際に活動できる機会を出来るだけ多く提供できるよう地方自治体とも協力していきたい。

## (12) 今後の課題

- 日本語を教える上での現場から出てきた事例に対して、どう対応するか議論する
- 外国人への日本語教育の模擬訓練をどのくらいの回数でプログラムに取り入れるか。
- ボランティアへのOJTの機会を増やす。

(写真) ある日の教室風景

